

令和4年第8回加須市教育委員会定例会会議録

招集の日時	令和4年8月19日	午後1時30分
招集の場所	全員協議会室	
開会の日時	令和4年8月19日	午後1時30分
閉会の日時	令和4年8月19日	午後5時30分
出席者の氏名	小野田誠教育長、遠藤康江教育長職務代理者、猪股富美子委員、秋山哲也委員、山本俊一委員、松永修委員	
欠席者の氏名		
会議に出席した者の氏名	齊藤千恵美生涯学習部長、遠井久夫学校教育部長、野本朋子こども局長兼学校教育課長、高貫貢生涯学習部副部長兼教育総務課長、鳥海生涯学習課長兼北川辺郷土資料館長、渡辺伸征文化・学習センター所長兼加須文化・学習センター館長、齋藤一実スポーツ振興課長兼加須市民体育館長、大原真理子図書館課長兼加須図書館長、清水博文学校教育課長兼指導主事、武井由加里学校給食課長兼加須学校給食センター所長、関口久美子こども局こども保育課長兼学校教育課長兼加須学校教育課長兼指導主事、野澤寛之学校教育課長兼指導主事、坂垣乃吏代こども保育課主幹、岡田正道教育総務課主幹	
会期日程	第 1 第 2 第 3 第 4 第 5 第 6 第 7 第 8 第 9	会議時間の決定 会議録署名委員の指名 前回会議録等の承認 第33号議案 令和4年度加須市一般会計補正予算（第5号）のうち教育費について 協議事項 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（素案）について 協議事項 「第2次加須市人づくりプラン」における令和3年度の実施状況について 協議事項 部活動の地域移行について 協議事項 市立幼稚園の適正配置について その他
発言者	会議の概要	
小野田教育長	<p>ただいまから、令和4年第8回加須市教育委員会定例会を開会します。</p> <p>本日の議事日程につきましては、別紙のとおりでございますので、ご了承願います。</p> <p>会議時間の短縮を図るため、事務局は各資料の説明について、簡潔明瞭に行ってください。</p>	

本日は傍聴希望者はありません。

小野田教育長

【日程第1 会議時間の決定】

日程第1 会議時間の決定についてでございますが、本日の日程がすべて終了するまでとすることよろしいでしょうか。

(異議なしとの声あり)

それでは、会議時間は、本日の日程がすべて終了するまでといたします。

小野田教育長

【日程第2 会議録署名委員の指名】

日程第2 会議録署名委員の指名について、今回は山本委員にお願いいたします。

山本委員

はい。

小野田教育長

【日程第3 前回会議録等の承認】

令和4年第7回定例会の会議録については、事前にお配りしてございます。会議録の内容について何かご質疑、ご意見等ございますか。

小野田教育長

ご質疑、ご意見等ないようですので、令和4年第7回定例会の会議録については承認ということよろしいでしょうか。

(異議なしとの声あり)

それでは、承認とします。

小野田教育長

日程第4 第33号議案「令和4年度加須市一般会計補正予算(第5号)のうち教育費について」は、加須市議会に議案として提案予定の案件であることから、加須市情報公開条例第7条第1項第4号の非公開情報にあたります。

よって、日程第4は、加須市教育委員会会議規則第3条第5項に基づき、会議を非公開とすることよろしいですか。

(よろしい との声あり)

なお、日程第4 第33号議案は、加須市議会に議案として提案された日以後は、非公開とする必要はございませんので、会議録につきましては、当日は非公開で行ったことを付記した上で公開する、ということよろしいですか。

(よろしい との声あり)

小野田教育長

それでは、これより会議を非公開といたします。

※「日程第4 第33号議案」は、令和4年9月1日開会の令和4年第3回加須市議会定例会開会前であったことから非公開で実施。

【日程第4 第33号議案 令和4年度加須市一般会計補正予算（第5号）のうち教育費について】

小野田教育長

日程第4 第33号議案「令和4年度加須市一般会計補正予算（第5号）のうち教育費について」を議題といたします。事務局より説明させます。

高貫生涯学習部副部長兼教育総務課長

令和4年度加須市一般会計補正予算（第5号）のうち教育費について、令和4年第3回定例会に議案を提出するにあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき審議願いたく、この案を提出するものです。内容としましては、歳出として、40万8千円を計上してございます。

（以下、担当から説明）

関口子ども局子ども保育課長兼学校教育部主席専門員

・公立幼稚園管理運営事業

小野田教育長

以上説明がありました。これより審議を行います。ご質疑、ご意見等ございますか。

遠藤委員

加須市以外の市町村の公立の幼稚園の先生たちと比べると、上げ率はどのようになっているのでしょうか。

関口子ども局子ども保育課長兼学校教育部主席専門員

公立の先生も同じでございます。

秋山委員

特例措置として期限付きで上げていますが、昨今、物価やエネルギー価格が上がっているものの、給与があまり上がらないという日本の現状を考えると、世界の水準から見ると決して高くはないので、処遇改善にも前向きに検討していただければと思います。

野本子ども局長兼学校教育部理事

これは国の施策でございまして、今般、コロナの最前線で活動する幼稚園教諭、保育士等の処遇を改善したところですが、これ以降も継続して改善するよにと、いう国の指針が示されておりますので、加須市としても、今年度限りではなく、来年度以降もこの措置は継続する方針でございます。

小野田教育長

他にございますか。

小野田教育長

それでは、ご質疑、ご意見等ないので、採択に移ります。

お諮りします。

第33号議案「令和4年度加須市一般会計補正予算（第5号）のうち教育費について」は、原案のとおり可決ということによろしいですか。

（異議なしとの声あり）

それでは、原案のとおり可決とします。

(全員賛成により原案可決)

小野田教育長

これより会議の非公開を解きます。

【日程第5 協議事項 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書(素案)について】

小野田教育長

日程第5 協議事項「令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書(素案)について」、協議いたします。それでは、事務局から説明させます。

高貫生涯学習部副部長兼教育総務課長

令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について、ご説明申し上げます。

今回、協議をお願いする報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づくものでございます。教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することが規定されております。また、方法といたしまして、学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされておりますので、今回につきましては、教育委員のOB、また、元小学校校長に学識経験者として協力をお願いしております。

本報告書につきましては、この後協議をお願いする、第2次人づくりプランに位置付けられております161の事業の中から、教育委員会の権限に属する97事業に限定して点検・評価をしており、第2次人づくりプランと同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、適正な評価が難しいものについては、コロナによる影響という区分で、評価対象から除かせていただいております。

昨年度、猪股委員からも、コロナによる影響ということで、評価から外すのはいかがなものかというご意見をいただきましたが、市の取り組みの中で、同じように評価しておりますので、今回もその形で評価しております。

それでは今回の報告書の説明に戻ります。

教育委員会の97事業のうち、コロナによる影響と区分した38事業を除く59事業について評価し、そのうち54事業につきましては、目標達成または概ね達成と評価しております。

昨年度、令和2年度分の報告の中で、加藤元教育委員、小林元教育委員から評価いただいた令和2年度の実績状況の意見について、担当課にフィードバックし、取り組み状況を記載しております。

今年度につきましては、小林元教育委員と、新井元大桑小学校校長の2人から学識経験ということで意見をいただいております。

報告書は、ご協議いただいたのち、修正を図りまして、次回の教育委員会定例会で議案としてお諮りをし、議決をいただきました後には、9月の市議会に報告し、公表を予定しております。

学識経験の方からいただいた意見につきまして、担当部局への取り組み状況の照会を今年度と来年度の2回を予定し、定例会にてご報告をさせていただきます。

ご協議のほどよろしくお願いいたします。

小野田教育長	<p>基本目標が1から7までありますので、基本目標ごとにご意見ご質疑を頂き、最後総括して伺います。</p> <p>まず基本目標1「自ら学ぶ力と確かな学力を育成します」について、ご意見ご質疑お願いします。</p>
松永委員	<p>15ページの段落にして下から2つ目、「市立幼稚園では、新型コロナウイルスのところがありますが、その後半部分に、「密を避ける環境づくりから、遊びの中で積極的に試行錯誤する経験が増えました。」という文言があります。</p> <p>意味を確認してから意見を述べさせていただきたいと思います。</p>
関口子ども局子ども保育課長兼学校教育部主席専門員	<p>密を避ける環境をつくりながら、遊びの中で子どもたちが積極的に遊びを工夫、試行錯誤する経験の話だとおかしいと感じました。</p> <p>環境づくりからではなく、環境をつくりながらに訂正したいと思います。</p>
松永委員	<p>試行錯誤しているのは、子どもということによろしいですか。</p>
関口子ども局子ども保育課長兼学校教育部主席専門員	<p>はい。子どもたちが自分自身で遊びを工夫し、経験が増えましたという意味でございます。</p>
松永委員	<p>試行錯誤というのは、いろいろ試してみて失敗を繰り返すうちに、偶然的に成功例を見つけていくという経験です。</p> <p>密を避ける環境をつくることによって、子どもたちが積極的にそういう体験をしていくということが、事例として見えてこない部分があり、タイトルが「自ら学ぶ力と確かな学力を育成します」ですので、そこ結びつけるのは、ピンとこないところがあると感じます。</p> <p>例として言うならば、「新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、環境づくりを工夫することにより、幼児の主体的な遊びを十分に確保し、小学校以降の学習の基盤を培うことに努めました。」とすることで、小学校との学力との繋がりを示すこともできるのかなと感じます。</p> <p>幼稚園の学びは楽しく遊んでいれば学べているという、一般的にとらえがちですけれども、小学校以降の学習の基盤を作っているということを、我々自身も発信していかないといけないと思うので、あえて意見を申し上げました。</p> <p>幼稚園における小学校以降の学習の基盤を培うための遊びの質の向上、そのための環境の工夫が、小中学校における学力を向上させるための指導方法の工夫改善だと思いますので、この点についてはご検討願えればありがたいと感じます。</p>
山本委員	<p>達成度評価のところの、「やや遅れている」「大幅に遅れている」項目について注目しました。</p> <p>一つ目は、10番の「学校訪問指導事業」で、評価が「やや遅れている」ということで、学校訪問回数と学力・学習状況調査の結果が一緒に並べてあるので、学校訪問ができなかったから学力が県平均より下回ったように捉えられてしまうところがあります。新井元校長先生の意見にもありますが、正答率イコール学力みたいな感じでとらえることはどうなのかなと感じます。</p> <p>学校訪問を行わなかったことでやや遅れているということになると、これはどうなのか、引っかかるところがあります。</p>

2つ目は、23番の「学校グリーンカーテン事業」で、評価が「大幅に遅れている」ということで、アンケートができなかったので遅れているのでしょうか。評価の理由を見ると、グリーンカーテンを各学校で取り組んでいる数字もあるので、「大幅に遅れている」のでしょうか。

3つ目は、26番の「いじめ・不登校対策事業」で、評価が「やや遅れている」ということで、文面を見ると不登校の児童の割合が若干増えていることで、やや遅れているという判断なのかなと考えたのですが、いろいろな対策を練って、教育委員会とか或いは学校でやっているにもかかわらず、増加傾向にあるというのは、手立てが生かされなかったのか、それとも社会問題で全体的にこういう児童が増えてきているのかということなのか、どう捉えているのか疑問に思いました。

清水学校教育課長兼
指導主事

達成度については、成果指標の実績値が目標値の80%未満になったものが「やや遅れている」、50%未満が「大幅に遅れている」ということで評価しています。

「学校訪問指導事業」は、この学力という部分で、何を指標にするのか、県の学力学習状況調査の県平均に達したらそれでいいのかと私たちも悩んでいるところではあります。ただ、下段の訪問回数を見ますと、年間大体200回訪問をしようという目標に対して、約半分ぐらいしかできていなかったということで、「やや遅れている」としています。

県学力平均に届いていないからというよりは、訪問がコロナの関係でできなかったということで、この評価にさせていただきました。

2点目の「学校グリーンカーテン事業」も同様でして、こちらもグリーンカーテンをやっているかやっていないかという目標であれば、大幅に遅れているとはならなかったのですが、アンケートが実施できなかったため0%であり「大幅に遅れている」としています。

43校のうち33校、半分以上がやっているもので、トータルすれば評価が異なりますが、あくまでもこの指標に対して何%というところなので、「大幅に遅れている」とさせていただきました。

最後の「いじめ・不登校対策事業」も同様でして、最終的にはゼロを目指しているところですが、現状としましては、ゼロに近づいていないので「やや遅れている」としています。

指標を見直さないと、この評価も変わらないと捉えているところでございます。

小野田教育長

教育以外も事業全体の評価がこの指標でいいのかということ、市のいろいろな面で検証していますが、現在は、成果指標とか行動指標とかを一つの目安として、これに対する評価をしています。

単純に見てしまうと疑問に思うところもありますので、下の評価の理由の表記を考えたほうがいいと思います。

猪股委員

指標の設定の仕方というのは、今年も納得できないものが多々あって、今後のいろいろな事業評価の課題としてご検討をお願いします。

指標の選定については、様々な継続的な事業のバックグラウンドも考慮すると、この指標を使わざるをえなかったというのは、ここ数年の教育事業の評価で理解はできますが、数字で把握できる量的な評価のほか、教育事業というのは評価が難しいので、質的な評価の説明をもう少し丁寧にしていただければと思います。

全体的に見てみると、基本目標の5から7ぐらいは、コロナの影響を受けざるを得なかったというのはわかりますが、2年目で、ましてやICTの浸透度もか

なり上がってきているので、昨年度のコロナによる影響に比べると、いくらでも企画や方法を検討することで、実践できたものが複数あります。

コロナによる影響はやむを得ませんが、それぞれの事業の内容を検討する際に、事業の中身を検討していただければ、事業そのものの質も上がると思います。

3番の「学力アップ事業」の中の「加須まなびTime」は、とても素晴らしい加須市のアスポート事業ですが、これもICTで幾らでもできることです。ここには書いていませんが、加須まなびプラスの現状を見てみると、せっかく環境が整っているのに、オンラインのコンテンツがちょっと貧弱です。学力アップ事業の中で、オンラインコンテンツの充実にも注力をしていただきたいと思います。

4番、5番の「英語教育推進事業」に関して、小学校時代は楽しかったのに、中学校行ったら英語嫌いになった子が周りに結構いますので、接続のところの英語教育のあり方を検討していただきたいと思います。それと、英検3級というのは、文科省が推奨しているから基準にすると思いますが、グローバルな人材育成という点ではどうなのでしょう。英語のコミュニケーション能力を図るような、TOEFLやJETとかいろいろありますので、グローバルな人材を育てなければ、英語教育の事業のゴールを設定し直した方がいいのではないかと思います。

6番の「サイエンススクール事業」で予算があるのはいいのですが、サイエンス教育は対面でもできるので、なぜ中止になるのか不思議でなりません。サイエンスで予算を付けるのであれば、義務教育の観点からもプログラミングとか、ほかにも教育のコンテンツがあるのではないかなと思います。イングリッシュサマーキャンプとか英語に特化したものはやっているの、夏季限定のスクール事業を、サイエンスだけにとどめず、もう少し広いテーマで検討していただけるとすごくいいかなと思いました。

最後に、9番の「生徒派遣援助事業」で、加須市立小・中学校児童生徒派遣費補助金交付要綱に基づいてと書いてありますが、給付の対象者が中学生になっており、なぜ小学生のアスリートやその文化芸術分野の派遣には、対象としていないのでしょうか。これから文科省も本格的に特別な能力を持った子どもたちについての支援を強化するということですので、この生徒派遣援助事業も、中学校の部活で優秀な成績を修めた子のみではなく、もう少し幅広く展開できないのかについて現状を教えていただければと思います。

清水学校教育課長兼
指導主事

中学校の英検3級というのは、私たちの中でも議論がありまして、そもそも中学校で英検を受けていた時代が終わってしまっていて、塾で受けているお子さんも多くいます。その中で50%としておりますが、学校の英語の授業で、その子どもたちがどういうふうに達成できているかというのは、確かに疑問があるところなので、今後指標をもう一度考えなければならぬと思っています。

小野田教育長

オンラインで置き換える部分はオンラインにしてということで、イングリッシュサマーキャンプについて、去年は全面的に中止しましたが、今年はオンラインで実施させていただきました。

サイエンススクール等についても別のコンテンツを用意すればできたのではないかとのお見解ですので、今後については、9月以降、タブレットの全家庭持ち帰りが始まりますので、そういうコンテンツも考えてください。

高貫生涯学習部副部長
兼教育総務課長

生徒派遣援助事業についてお答えいたします。
加須市立小・中学校児童生徒派遣費補助金交付要綱に基づき去年補助したのは、

	<p>中学校の部活動に係る全国大会や関東大会となっておりますが、小学生や文化的なもの取り組みについても対象にはしております。</p> <p>補助対象として、全国小中学校の体育連盟ですとか、小学校等で組織している全国組織、関東の小中学校の組織に対象を絞っておりますので、スポーツクラブで全国大会に行くとなったときに、対象とならなかつたご相談もありました。</p> <p>補助対象となったものは、文化的な活動よりも運動系のものが、多いというのが現状でございますが、この事業そのものは文化的な活動を対象としないということではなく、全国大会的なものであれば該当する要綱となっております。</p>
猪股委員	個人では申し込めないということですか。
高貫生涯学習部副部長兼教育総務課長	個人の場合でも、大会はどこが運営しているかというところで、全国小中学校の体育連盟等が主催している全国大会に行く時には補助対象としています。全国的なスポーツクラブみたいなものの全国大会となると、対象にはしていません。あくまでも、主催している組織はどこかということで、対象事業を絞らせていただいています。
猪股委員	これから部活動の地域移行が進んで、子どもたちの文化活動やスポーツ活動が様変わりしてくるので、能力はあっても経済的な理由で或いはそういう大会の組織の事情でサポートしてもらえない子が1人でもいなくなるように、この事業の制度設計についても、子どもたちの才能を開花させるための支援はどうあるべきか、今後検討をお願いできればと思います。
遠藤教育長職務代理者	<p>23番の「学校グリーンカーテン事業」で、グリーンカーテンは各学校で行っているのですが、できればそれ以外のものを今後考えていただいて、SDGsに関するものの中から、何か学校で行えるようなことを指標に変更したらいいのではないかなと思います。</p> <p>24番の「中学生夢創造チャレンジ事業」で、評価の理由の一番下のところで、検査料や保険料を使うことができなかつたとなっておりますが、この表記を市民が見た場合、ちょっと違和感があると思います。保険料を使わなかつたためとかにした方が、スムーズな感じがします。</p>
清水学校教育課長兼指導主事	<p>「学校グリーンカーテン事業」でございますが、ゼロ予算事業で維持しているものでございまして、指標云々ではなく、この事業を続けるかどうかというところで、検討していこうと思っております。</p> <p>「中学生夢創造チャレンジ事業」でございますが、指標としましては、中学校8校のうち、ふれあい講演会を4校が実施したので、50%となっております。取り組み内容の中で、職場体験を実施しなかつたため、飲食店に入る場合の検査や保険に入る必要がなく、指標の評価の理由ではなく、評価以外の面として、検査料や保険料は使わなかつたというところでございます。</p>
小野田教育長	ここにある指標について、適切か適切じゃないかは別として、市の一番の基本計画である総合振興基本計画に結びついているので、今の意見を忘れずに、本当にその事業がそれで評価できるのかという視点で、見直しを検討してください。
小野田教育長	続いて、基本目標2「豊かな心を育む取組を推進します」について、ご意見ご質

	<p>疑をお願いします。</p>
秋山委員	<p>26番の「いじめ・不登校対策事業」と27番の「教育センター運営事業」で、大きく評価が異なっているので、評価の理由をもう少し丁寧に書くべきではないでしょうか。</p> <p>「いじめ・不登校対策事業」がやや遅れているということなので、お子さんが苦しんでいる親御さんを見ると、どういうふうに捉えたらいいのかと思うので、評価の基準は難しいと思いますが、よろしく願いいたします。</p>
清水学校教育課長兼指導主事	<p>不登校児童の割合でございますが、この部分を例えば10%とかというわけにはいかないと思っております。</p> <p>不登校ゼロを目指していますが、どうしても0.53や3.93という数字が出てしまう状況になっております。</p>
小野田教育長	<p>評価の理由を丁寧に書けばいいと思います。</p> <p>全国的な傾向として不登校の割合は上向いていて、加須市だけの傾向ではないので、なぜ増加傾向にあるかとかを評価の理由に記載してください。</p>
小野田教育長	<p>続いて、基本目標3「安全で安心な学校給食の提供と健やかな体の育成を推進します」について、ご意見ご質疑をお願いします。</p>
遠藤教育長職務代理者	<p>33番の「中学校健康推進事業」で、取組内容の中に、先生の健康診断などいろいろある中で、生徒の虫歯の治療だけしか載っていません。</p> <p>34番の「小学校管理運営事業」も、取組内容がたくさんある中で、図書整備率だけになっていますので、見直していただきたい。</p> <p>36番の「公立幼稚園管理運営事業」も、適正な管理運営なのに、チラシやホームページ等での周知数になっており、先生方のいろいろなご苦勞とかそういうものが見えてこないの、これでいいのかと思いました。</p>
小野田教育長	<p>成果指標がすべてをあらわすかどうかは別として、指標を見直す機会に、見直しをかけてください。</p>
関口こども局こども保育課長兼学校教育部主席専門員	<p>「公立幼稚園管理運営事業」の指標ですが、昨年度は歯磨き指導回数という指標でしたが、昨年度ご指摘を受けまして、保護者や地域への幼稚園教育活動に対するチラシやホームページ等での周知数に変更したところでございます。</p> <p>園の活動の内容を地域に知っていただくということで、指標としてふさわしいのではないかと考えて変更したところでしたので、またご意見いただければと思います。</p>
小野田教育長	<p>チラシやホームページも本当に大切なことだと思いますが、この取り組み内容の中に、公立幼稚園の管理運営、先生の講習会の受講料の公費負担、主任教諭が担任をしている3園に事務職員を配置というのがあります。この三つの中から一番上の管理運営を評価しています。</p> <p>取組内容と指標が乖離しているのではないかというご意見ですので、例えば、職員配置の配置率が100%とかの方が、事業の内容からしていいのではないかということです。</p>

小野田教育長

続いて、基本目標4「質の高い教育のための環境づくりを推進します」について、ご意見ご質疑お願いします。

山本委員

41番の「学校いきいきステーション事業」で、ふれあい推進長がどういう役目をしているのか教えていただきたいと思います。特に、事業の改善点に、応援団の高齢化により、登録者が減少しているということが書いてあります。この具体的支援の中の登下校と環境整備がイコールになっているのではないのでしょうか。学習支援が各校でどのようになっているのかという疑問があります。

44番の「保・幼・小中一貫教育事業」の目標のところ、650回という数字は、どういうところから来ているのか教えていただきたい。また、リンクミーティングは開催できずと書いてありますので、できなかった理由の説明をお願いします。

45番の「家庭の学びと地域の絆推進事業」で、いろいろな講座について、内容や地域などの一覧表をいただけますでしょうか。これまで、できなかったにしても、そういう計画表みたいのがあれば、今後参考になると思います。

46番の「まちかど美術館推進事業」で、コロナの関係で商店街のイベントが開催できなかったというのがよくわからないのですが、商店は開いているので、飾ることだけはできるような気がします。この事業は、芸術に対する市民の関心と興味を広く創出するためのものなので、これも見直していく必要があると思います。

49番の「二十歳の集い開催事業」で、1会場化を誰が望んでいるのでしょうか。私も今年、北川辺地区の成人式に参加させてもらいましたが、地区ごとの方がいいのではないかと思いますので、その辺の方向性を教えてください。

清水学校教育課長兼
指導主事

学校応援団コーディネーター、いわゆるふれあい推進長は、学校と地域をつなぐ方となります。例えば、登下校の見守りや学力向上のための取り組みのため、人の応援が必要なときに、学校と地域をつなぐ方となっております。この数字を見ますと、登下校の際の見守り、それから校内の環境整備の人数が非常に多くなっているというのが現状でございます。

44番の保・幼・小中一貫教育事業の650回の根拠ですが、小学校、中学校さらに幼稚園、保育所という部分が、先生方だけの交流ではなくて、児童、園児等も含めた交流なので、大体一つの園で10回程度ということで、この数字が出たのではないかと考えております。

鳥海生涯学習課長兼
北川辺郷土資料館長

「家庭の学びと地域の絆推進事業」ですが、一覧表を持っております。親の子育て講座とかは、学校からの要請があつて、県を通して家庭教育アドバイザーの方をお願いしてきてもらったりするのがありますが、その一覧がありますので、次の教育委員会でお配りできればと考えておりますので、よろしくをお願いします。

「まちかど美術館推進事業」につきましては、商店街のイベントが中止になりという言葉がありますが、まちかど美術館をやっていた経緯は、加須小学校で行っていたのが最初で、商工会で行っているまちかどにぎわいフェスティバルに人が来るので、空き店舗をお願いして、子どもたちの絵を飾っていただき、同時開催をしていました。コロナ禍やお店の方の事情もあつて開けられないということもあり、行き詰まってしまったところもありますが、コロナ禍が終息してイベントを行えば、にぎわいを取り戻すためにも必要だとは考えております。

事業の改善点のところ、芸術文化を身近に楽しめる機会を作りとありますが、要は、親御さんとかおじいちゃんおばあちゃんが、自分の子どもや孫がどんな絵を描いているかを見る機会を創設しているという方がいいのかなと思いますので、書き方は考えたいと思います。

「二十歳の集い開催事業」で、今まで成人式という言い方をしていましたが、成人年齢が下げられたこともあって、二十歳の集いという名前にしました。コロナ禍が終息するかどうかはまだわかりませんが、今回も計画の段階では、分散の方向で進めております。一つの市になったので、一つの会場で、みんなで盛大にやるというのがいいのではないかということで、1会場化が目標ではあります。

山本委員

参加する人たちは、そういう方向を望んでいるのでしょうか。

鳥海生涯学習課長兼
北川辺郷土資料館長

地域ごとに、同級生の5人ぐらいで、二十歳の集いの実行委員会として話し合いで決めているのですが、雰囲気的にはどちらでもいいという感じです。今回は、コロナ禍もあったので、分散で行いたいという事務局の素案を話したところ、いいですよということで、そういう流れにはなっています。望んでいるかどうかというと、望んでいるとまでは言えないと思います。

小野田教育長

続いて、基本目標5「家庭や地域で健やかな子どもを育む取組を推進します」について、ご意見ご質疑お願いします。

猪股委員

48番の「通学路安全対策事業」で、子どもたちの安全確保ということで、対応割合100%と書いてありますが、1件要望があったらそれをかなえれば100%になるので、どのくらいの改善要求、要望に対応しているのか、件数も知りたいなと思います。

全体を通して、指標の単位がパーセンテージで書いてあるところ、人数だけ書いてあるところ、いろいろありますが、特に地域の課題として重要なものについては、評価するその単位の書き方を少し工夫した方が、努力が伝わるのではないのかなと思いました。

清水学校教育課長兼
指導主事

確かに100%になっていると、何件あったのかというところが見えてこないところではあると思います。

対応件数は、予算で対応できる場所ということで、何件と書けばはっきりすると思います。学校の要望の中には、まだ安全なので、待ってくださいというものも含まれておりますので、学校が要望を出したもののすべてができていないわけではありません。

猪股委員

そういう現状であればなおさら、こういう書き方で適正なのかと感じます。

清水学校教育課長兼
指導主事

確かに学校の要望が何件あって、対応できたのが何件という、そのままの資料の方がいいかなとは私も思っております。

遠藤教育長職務代理者

今の通学路の件で、私もPTAをやっていたときに、毎年通学路を点検して、ここを改善して欲しいというところを、毎年同じように出しているけれども、取り上げていただけるのは数件のみです。そういうのを知っているPTAの方がこれを見たら、何でと思うので、表記の仕方は変えたほうがいいと思います。

清水学校教育課長兼指導主事	この表記の件に関しては、検討していこうと思います。
小野田教育長	<p>通学路安全対策事業というのは、カーブミラーがあった方が安全だとか、グリーンベルトがここに引いてあったほうがより子どもが安全だとか、すぐに対応できるようなものであり、市内すべての通学路の構造的な整備を目的としているものではありません。</p> <p>市内の通学路に関する整備は、道路やいろいろなものとあわせて年月をかけて整備をする必要があります。整備とは別に、通学路安全対策事業という別予算で、要望を関係課に伝えて、すぐやってもらえるようにしているのが本市の特徴です。</p>
小野田教育長	<p>続いて、基本目標6「生涯にわたる学びの支援や芸術・文化の振興を図ります」について、ご意見ご質問お願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
小野田教育長	<p>続いて、基本目標7「スポーツ・レクリエーションの力で元気な市民と活力ある加須市をつくります」について、ご意見ご質問お願いします。</p>
山本委員	<p>82番の「総合型地域スポーツクラブ育成事業」で、20年近く前に、各市町村が総合型スポーツクラブを立ち上げてというような話で、北川辺でも何とか立ち上げましたが、10年近くなってきたときに、予算がだんだんいただけなくなり、NPOの話もありましたが、束縛が多く大変なことばかりで、周りの人たちの応援というのも少なくなり、結局は解散してしまいました。</p> <p>今後の取り組みのところに、総合型地域スポーツクラブの設立準備委員会の設置を促すという文言がありましたので、どのように進めていこうとしているのか、まだ具体的なことはないとはいえますけれども、方向性でも見えているようでしたら教えていただきたいと思います。</p>
齋藤スポーツ振興課長兼加須市民体育館長	<p>今現在は、平成国際大学が設立に向けた検討を始めようとしているという状況でして、市としましては設立したときに、グラウンドの確保とかの側面からの支援を検討しております。</p> <p>総合型スポーツクラブの中身とか、競技の内容とか、種目の数とか、そういったものにつきましてはあくまでも、設立する団体の意向に沿うということを考えております。</p>
山本委員	総合型を進めようとする団体は、今あるのでしょうか。
齋藤スポーツ振興課長兼加須市民体育館長 猪股委員	<p>現在は、平成国際大学の1件でございます。また、埼玉KAZOスポーツクラブが市内で活動しておりますので、アプローチは試みているところでございます。</p> <p>スポーツ・レクリエーションの評価の仕方、3年度はコロナによる影響を受けて、なかなか実態を正確に表すような評価は難しいかと思っておりますけれども、スポーツイベントを評価するときに、参加費収入を評価の一つの指標として検討す</p>

る予定はあるのでしょうか。

それから、ここに女子硬式野球もありますが、女子硬式野球は企業版のふるさと納税の支援対象になっていますので、教育委員会としての予算としてつけられることになるのでしょうか。

齋藤スポーツ振興課
長兼加須市民体育館
長

参加費収入のある例として、女子硬式野球がございます。

加須市が全国女子野球連盟と共催で選抜大会を3月から4月にかけて、開催しておりますが、実行委員会を設置しておりますので、その中で参加費を各チーム2万円集めています。

また、市が40万円の補助金を実行委員会に支出しております。ほかに全国女子野球連盟からの補助金などを収入として、運営しております。参加費としての収入がございますので、指標に入れられなくはありませんが、指標としてはあまりそぐわないのかなという気はしています。

女子硬式野球は企業版ふるさと納税で集まった寄付収入を野球場の整備に充てるという方針になっております。

遠藤教育長職務代理
者

予算執行額の低い理由を書いてあるところが何ヶ所かありますので、載せたほうがいいのかどうかを検討していただきたいと思います。

83番の「スポーツ施設整備事業」で、64%整備したと書いてありますが、決算額がゼロになっています。お金を使わないで、何かを整備したのかその辺の説明をお願いします。

90番の「自転車普及推進事業」で、サイクリング教室が参加者4名と書いてありますが、何人募集して4名だったのでしょうか。

齋藤スポーツ振興課
長兼加須市民体育館
長

スポーツ施設整備事業ですが、修繕等の予算につきましては、施設管理運営事業というもう一つ別の事業で執行されています。スポーツ施設整備事業は、安全点検などを毎日定期的に行うという事業でございます。ちょっとわかりづらくて申し訳ありません。

サイクリング事業は、昨年初めて実施し、募集人員は20名のところ結果4人しか集まらなかったということです。今年につきましては、10月に渡良瀬遊水地まつりが開催されるときに、同じ会場で実施をして、より多くの方に参加をいただこうと予定しております。

小野田教育長

それでは全体を通してその他の事業も含めて、何かございますか。

松永委員

令和2年度の評価を踏まえた取り組み状況等で、コロナの影響を受けるという表記や、コロナ以前という表記につきましては、全体を通して、同じように、コロナ禍以前であるとか、新型コロナウイルス感染症の影響という正しい言葉で、書いたほうがいいのかと感じます。

79ページで、基本目標3「人権を尊重した教育を推進します」の事務局の3年度の取り組み状況で、「道徳教育につきましては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としております。」とありますが、これは道徳の目標の最後の部分をとったところだと思うのですが、必要なところは、その前段であって、「自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性」ということで、その前段の部分、「自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性」ということを入れたほうがよろしいかと思えます。

猪股委員	<p>6の令和2年度評価を踏まえた取り組み状況等と、7の学識経験者の意見の書式が違います。また、基本目標と施策が、ビジュアルで差別化できるようにすると、読みやすくなると感じました。</p>
秋山委員	<p>女子野球とかクライミングスポーツ大会とか、コンサート関連で、パストラルかぞでのいろいろな講演の目標値が、来年度もずっと同じでいいのでしょうか。要は、コロナ禍以前の目標値であり、コロナ禍が終息しても、すぐに、見に行くとか聴きに行くという方は見えにくいと思うので、目標数値として来年、再来年で、以前と同じようにするというのは非常に難しいのかなと思います。これは音楽関連の業界でも、そういうふうに使われています。</p> <p>どのようにこれから目標設定していくのかは、難しい問題なので、よろしくお願いいたします。</p>
小野田教育長	<p>事務局は本日いただいたものを踏まえて修正をして、部長、局長をはじめ、課長の目を通して、今日のこの意見が反映するような修正をして、次回の定例会に議案として提出してください。</p> <p>【日程第6 協議事項 「第2次加須市人づくりプラン」における令和3年度の実施状況について】</p>
小野田教育長	<p>日程第6 協議事項「第2次加須市人づくりプラン」における令和3年度の実施状況について、協議いたします。それでは、事務局から説明させます。</p>
高貫生涯学習部副部長兼教育総務課長	<p>市には総合振興計画があり、教育に関わるところで、加須市人づくり宣言ということで教育大綱があります。それを具現化した取り組みの計画として、加須市人づくりプランがあります。これは、人づくりということで、教育に限らず、保育や広く人権に関わることも含まれます。</p> <p>先ほど協議いただいた報告書は、第2次人づくりプランに位置付けられた161事業の中から、教育委員会が管轄している97事業を抽出したものの評価をお願いいたしました。</p> <p>大きなところから協議いただければ、協議しやすかったところですが、順番を逆にしてしまい申し訳ありませんでした。先ほどいただいたご意見は、この人づくりプランにも反映させていただきます。</p> <p>これから協議をお願いする人づくりプランにつきましても、先ほどの報告書と基本的には同じ作りであり、7つの基本目標、その下に16の施策があります。その中に161の事業を位置付けております。</p> <p>人づくりプランにつきましても、新型コロナウイルスの影響を受けたところは除いており、161事業のうち57事業をコロナの影響と評価しております。</p>
小野田教育長	<p>第2次加須市人づくりプランの全体を通して、一括でご質問、ご意見をお受けします。</p>
猪股委員	<p>先ほどの教育事業の点検評価の報告書の最後に、おわりにということで教育委員会の名前で、総括の文章が出ています。</p> <p>最初の行に加須市人づくりプラン踏まえて、全事業を評価しているということ</p>

が書いてありますが、この人づくりプランに基づく教育事業の点検評価というところであれば、この総括の文章に、人づくりプランにおける教育事業の点検評価の位置付けを書いたほうがよいと思います。

最後のパラグラフが本当の総括になりますが、総括としてはざっくりしていて、何で教育事業の評価をやるかというところをもう少し、人づくりプランの中でのこの教育事業の点検のあり方と評価について、もう少し書いた方がいいのかと思います。

そうでないと、別個のものと捉われてしまいますので、市民のためにも、もう少し踏み込んだ記載をお願いします。

小野田教育長

点検評価報告書に関するご意見は、両方連動して、修正等をお願いします。

それでは、日程第6の第2次加須市人づくりプランにおける協議については、先ほどの点検評価報告書に関する協議も踏まえ、修正し、報告書を作成してください。

【日程第7 協議事項 部活動の地域移行について】

小野田教育長

日程第7 協議事項「部活動の地域移行について」、協議いたします。それでは、事務局から説明させます。

清水学校教育課長兼
指導主事

部活動の地域移行が求められる背景と国の動きでございますが、部活動指導で負担のかかる教員の働き方改革というのが一つの大きな柱です。もう一つは、少子化による部活動の維持が困難になったこの現状を踏まえて、部活動のあり方を見直されるようになって参りました。

今年度、6月にスポーツ庁から運動部、7月に文化庁から文化部に関する、それぞれ提言の方が発表になっております。それを踏まえまして、令和5年から令和7年までの期間を改革集中期間としまして、まずは休日部活動について段階的な地域移行をしていくということが示されております。その検討会議で示された課題でございますが、例えば、地域スポーツの整備の充実、地域における指導者の質の保証、施設等の確保、大会コンクール等のあり方、学習指導要領を含むあり方、中学校の進路に関わる調査書等も入って参ります。

今日の一番大きな部分でございますが、本市の部活動の状況でございます。

運動部の加入率72.4%、文化部25.6%で98%の生徒が、現在部活に加入している状況でございます。部活動の加入は、8校が全員加入を実施しておりまして、騎西中学校と北川辺中学校は希望制をとっております。

指導者でございますが、運動部で25名、全体の28.4%、文化部で5名、16.7%が外部の方に依頼しているところでございます。専門的な指導ができる顧問に関しましては、68名、全体の約42.8%、言い換えれば、57.2%は、専門的な指導ではなく学校で指定された部の顧問をしているという状況でございます。

実施上の課題でございますが、生徒の減少により部員が足りず自校でチームを組めない学校が何校かございます。また、部活動の種類が少なく、希望する競技に取り組めないという状況もございます。

県では、今後の部活動地域移行について、目標や課題等を踏まえ、埼玉県部活動地域移行推進委員会というものを立ち上げる予定と聞いております。スケジュールといたしましては、令和5年の4月の段階で、埼玉県のビジョン等を公開す

るということですので、私たちもそのビジョンが出てから、加須市の方のビジョンを策定していこうと考えているところでございます。

この後、加須市で、中学校校長、教員、中学生、保護者に行ったアンケートの結果を説明いたします。

野澤寛之学校教育課
主幹兼指導主事

- ・中学校長アンケートについて
- ・中学校教員アンケートについて
- ・中学校1・2年生アンケートについて
- ・中学生保護者アンケートについて

清水学校教育課長兼
指導主事

令和5年4月に県のビジョンが策定され、今お示したアンケート結果をもとに、加須市が進む方向を検討するための取組として、検討委員会を立ち上げて参りたいと考えております。具体的にどのような方に委員をお願いするかは検討中ですが、今年度中に検討委員会を立ち上げたいと考えておりますので、次回の、9月の教育委員会定例会には、案を示してご意見をいただきたいと思っております。

また、部活動に関して自由加入制という部分が大きく出ておりましたので、自由加入制で、本当に学校に必要な平日部活動の精選を行っていくことを考えております。

小野田教育長

部活動の地域移行は、それぞれの県単位で、協議をしているというのが実情であり、現在も、財政面であるとか、調査書の項目から部活動の項目を削るとか、大会のあり方をどうするかというような、具体的な課題がどんどん上がっています。

それを検討した結果として、県がビジョンを出すのが今年度中ということですので、市町村単位については、財政面も含めて課題がどうクリアされるかによって、仕組みづくりが変わりますので、今年1年をかけて、毎回こういう時間を設けますので、ご意見をいただければありがたいと思っております。

検討委員会とするか、部活動のあり方委員会とするかわかりませんが、そういう委員会への諮問をしていき、最終的にはこういう形でいきたいと思いますというのを議決してもらおう形になると思っておりますので、初発ですが、ご意見やご感想も含めてよろしくお願ひします。

遠藤教育長職務代理
者

自分の学生の頃や、自分の子どもの学生の頃と比較しては絶対に駄目だというのをひしひしと感じました。やはり、加須市内でも地域格差というのは生まれてきてしまうと思ひます。

外部指導者をお願いするにしても、子どもたちが学校の先生とその指導者の板挟みになってしまうことがあっては絶対にならないと思ひますので、その辺もいろいろ考えないといけないことがあるので、難しい問題だなと思ひました。

これから皆様と一緒に検討して参りたいと思ひます。

松永委員

アンケートの結果で、管理職アンケート、職員アンケートを見ると、やはり加須市においても課題が多くて教員の負担軽減が必要だということがわかり、国と全く同じだということを感じました。

一方、生徒のアンケート結果では、今加入している部活に満足しているのが90%、中学校教員による指導体制を希望するのが73%と、ものすごく高く、特に9割が満足しているというのは素晴らしい成果だと思ひます。これは本市の部活動が教育的な成果を上げていることを示す結果であり、先生方は本当に熱心

に、きめ細かな指導しているということを強く感じました。

これは、今後検討していく中で、本市のあるべき今後の部活動を考えていくときに、一番根底になる貴重な資料だと思います。

この地域移行について、基本的に考えないといけないことは、教員の負担軽減、働き方改革であり、これは絶対に達成しないとなりません。どんな方法になっても、これが軽減されなければ、部活動の地域移行が成功したとは言えない前提となるものです。その上に立った部活動の地域移行であって、部活動から地域におけるスポーツ活動、文化活動への移行ではなく、部活動が移行していくということになりますので、どれだけ子どもたちが満足できるかということを前提に置かないといけないということになります。

そういうことを踏まえていくと、課題がここに書いてあるほか、どれだけ出てくるかわかりませんが、非常に難しい部分が出てくると思います。

そういう意味で理想的なビジョンを描きながら、持続可能なもの、そして本市においてできるものは何かということ、今後時間をかけて検討していかないといけないということを強く感じました。

猪股委員

加須の部活動の現状は、本当に素晴らしいということを改めて痛感しました。

基本的に部活動の地域移行については、いろんなメディアの報道から、教員の働き方改革が大元の課題だということで短絡的に語られていますが、要するに現代の世の中で、子どもたちを育てていくのは、学校だけでは難しいということで、部活動に限らず、保護者の方たちにアピールすべきは、教員の働き方改革というよりも、これからの社会は地域でみんなが協力し合って子どもたちの学びを支えていかなければいけないということを強調して、話し合っていくべきだと思います。

部活動というものが教育法令の中でどう位置付けられていくかは、これからもいろいろと検討されて、学校教育課程の中での部活動の教育的意義というのがまた少し変わる可能性があるかもしれませんが、これだけ子どもたちが学校の教員、或いは学校の部活動に期待をしているので、加須の今までの実践を振り返ってどこがよかったかというところは大事に残して、そして、地域でできることは何なのかということ、ぜひ市民のいろいろな方々の協力を得て進めていってもらいたいと思います。

今後、学校の統廃合を進めていく上でも、地域と協力するというベースを作るという意味では、いいきっかけにはなるのではないかなと思います。

私自身も、微力ながら何らかの形で地域の子育て支援というか、そういうところで関わっていければと思っています。

山本委員

地域移行せざるをえないというところに来ていて、そのためには、そのメリットとデメリットが非常にたくさんあって、その地区、学校によって違ってくるだろうということもよくわかりますので、地盤づくりは一筋縄ではいかないだろうなど、じっくりやって欲しいなという気がします。

当面、地域移行の第一歩として、休日の指導者をというところから入っていくと思いますが、今のアンケートを見ますと、外部指導者をお願いしている学校も、あるということですので、実際どういう問題があって、どうしていったらいいか、ヒントみたいなのをいただければ、取り組みやすいのかなと思いました。

もう一つは、自由加入制を希望していることについて、私は、子どもたちが、部活が大変だから楽をしたい、自由なことや好きなことをやりたいから部活に入り

たかないと受け取ってしまいます。そのため、自由加入というのを、どうとらえて、どう進めていくかを抽象的ではなく、具体的な理由を挙げてほしいと思いました。

秋山委員

働き方改革に国を挙げて進めるということなので、そこはまず、一番大事な視点です。あとは、アンケートから保護者或いは生徒も非常に満足している数値が出ていますので、ここを兼職兼業の先生はいいとしても、やりたくないという先生方と外部指導者との連携をどういうふうにとっていくのかというのは非常に難しい大事な問題かなと思いました。

学校での様子というのをどれだけ外部指導者の方が理解をして、指導に当たっていくのかというのが、非常に重要なポイントかなと個人的には思っています。

あとは自由加入の件ですが、家で特に何もすることもなく、ずっと過ごしている生徒は、学校の部活に参加させたほうがいいのかと思います。そこはそう思いますが、音楽でヴァイオリンやピアノとかの実技系の練習が必要な子も未加入です。学校や先生と、ものすごい討論を重ねて、やっと部活をやらなくていいということになって、家で練習しているという生徒は昔からいるので、そこら辺をどのように評価していくのか。だから、家に帰って、ずっとゲームをしている生徒と、ピアノの練習を3時間4時間、勉強のほかにもやっている生徒と全く違います。

昔から音楽業界ではある話なのですが、なかなか学校側が理解してくれないということを知っているから、そういう評価基準というのも何かあればいいかなと思いました。

小野田教育長

こういう形で毎回協議をしていきたいと思います。

先行しているところで、やってみただけ、なかなか続かなかったというところもありますので、加須市の実態に応じ、それぞれの教育委員さんの立場でご意見をいただければありがたいと思います。

第1回目のスタートということで、工夫をしながら進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いします。

【日程第8 協議事項 市立幼稚園の適正配置について】

小野田教育長

日程第8 協議事項「市立幼稚園の適正配置について」、協議いたします。それでは、事務局から説明させます。

関口子ども局子ども
保育課長兼学校教育
部主席専門員

・第2期子ども・子育て支援計画（令和2年3月策定）に定められている学級編制基準について

教育委員の皆様方には、本日の意見とともに後日も含め、ご意見をいただければと存じます。

野本子ども局長兼学
校教育部理事

令和2年の3月にこの計画を策定して、その中で幼稚園や保育所の適正規模を明確化し、昨年度には樋遣川幼稚園の3歳児が休室、そして今年度は、5園の3歳児が休室、樋遣川幼稚園はそのまま休園という状態になったところでございます。

令和元年10月に、保育料の無償化がございまして、翌年にはそれほど影響がなかったのですが、3年ぐらいたってきますと、その影響もかなり大きく、幼稚

園の園児数は昨年度に比べて90人弱減っているという現象も起きています。
幼稚園の在園児が減っているのと、保護者や家庭の環境が変わってきたことが大きく影響して、この計画は5年の計画ですが、中間見直しでかなり大幅に見直さなければいけないという状態になっております。

幼稚園をどうしていくかというところは、皆さんのご意見をお聞きしながら、これから早急に考えていかななくてはならない課題でございますので、よろしくお願ひします。

猪股委員

加須の幼稚園教育は、他の市町村の方から、一つの教育財産だっと言われるくらい、すごく羨ましがられます。延長保育も預かり保育も手堅くやっているのに、なぜみんなが幼稚園を離れ、保育所に行ってしまうのでしょうか。

実際に私たちも施設訪問をして、幼稚園教育は本当にすごいと思いました。保育所とはまた違う幼稚園教育の質の高さがあり、素晴らしい場所です。

ただ入園が減るというのを待っているだけではなくて、行政機関としては、いかにこの幼稚園を選んでもらえるかという、戦略的な広報や周知活動ができる余地は十分にあるのではないかと思います。

遠藤教育長職務代理者

大利根地域では、昔から公立の幼稚園がありませんでした。保育園でも保育内容がとてもよかったので、私自身はよかったなと思いますけれども、市立幼稚園のありがたさを、私たちの時代は、みんなのお母さん方が感じていました。

今のご両親は、皆さんほとんど共働きで、長い時間子どもを預かってくれるところを探しています。私も娘に子どもができて、保育園に預けているのですが、いろいろ聞くと、働いている親は保育園の方がありがたいというところがあって、そちらに流れていってしまうのかなと思いました。

松永委員

一番大きなところは、両親が働いていて、幼稚園にいる時間が限られているところだと思います。

幼稚園機能と保育所機能を両方持った、こども園の発想もしていければいいのかなと思います。それで初めて幼稚園教育の価値を多くの方に与えることができるのではないかと思います。

今年、加須幼稚園が誕生してから100周年に当たり、相当教育に対する思いがあって、県内第1号大正14年にできたという経緯もありますので、ぜひ幼稚園教育のすばらしさを、多くの方が享受できるようにしていただければありがたいと思います。

小野田教育長

継続協議にしますので、本日は協議を終了いたします。

【日程第9 その他】

小野田教育長

日程第9 「その他」でございます。諸般の報告をさせます。
斉藤生涯学習部長より順次報告をいたします。

斉藤生涯学習部長

- ・北埼玉地区教育委員会連合会について
- ・第1回加須市総合教育会議について

遠井学校教育部長

- ・学習端末活用のしおり（ホームページ掲載用）について

野本こども局長兼学校教育部理事	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会議会議録について ・運動会・体育祭について
清水学校教育課長兼指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ・加須幼稚園の創立 100 周年資料展示について ・加須市立幼稚園の幼稚園業務補助員募集について ・令和 4 年度全国学力・学習状況調査における結果公表について ・令和 4 年度全国学力・学習状況調査の結果について ・令和 4 年度特別支援学級等の就学状況について
小野田教育長	<p>それでは、委員さんの方で、説明がほしい資料はございますか。</p>
猪股委員	<p>外国籍児童生徒に対する日本語指導について、本来であればもう少し頻繁にマイノリティーの子どもたちがどういう教育状況にあるのか資料を見たかったのですが、ここのご説明いただきたいと思います。</p> <p>人数を見てもそうなのですが、外国籍児童生徒数と指導対象数に差があるので、指導対象でない子どもたちは、問題なく通常のクラスでやっているのでしょうか。</p> <p>また、指導を必要とする子どもたちの現状を見ると、この程度で支援は足りているのか知りたいので、よろしくお願いします。</p>
清水学校教育課長兼指導主事	<p>対象児童が小学校 6 5 名、中学校 2 7 名、合計 9 2 名というのが、外国籍の児童生徒数でございます。</p> <p>9 2 名すべての児童生徒が、日本語ができないわけではなく、外国籍であっても、日本で生まれて、日本語ができるお子さんもいます。逆に、日本国籍ですが、外国での生活が長くて日本語ができないお子さんもいます。</p> <p>その場合、編入または転入した段階で、一度お子さんの日本語の力を見させていただいておまして、日本語指導が必要な場合には、日本語指導教員による個別の指導を行っております。</p> <p>特別の教育課程による日本語指導をしている 2 8 名の児童以外は、教室に入って大丈夫であろうというお子さんになっています。</p> <p>逆にこの 2 8 名は教室に入って、その学年の少なくとも国語の授業は厳しいであろうということで、まず日本語の指導を行っているところでございます。</p> <p>県費負担教職員 1 名と書いておりますが、実際は週 3 日勤務の方と 2 日勤務の方の 2 名で各学校を回って指導しているのが現状でございます。1 人 1 コマ指導していきたいのですが、学校がバラバラな関係で、移動時間等も必要になるため、そのお子さんの日本語の理解度によって、3 週に 1 回や毎週 1 回のお子さんという形で、指導しております。</p> <p>中学校に関しましては、教員免許の関係で入れることができませんので、日本語ボランティアの 1 1 名に見ていただいているのが現状でございます。</p> <p>今後は、習熟度によって、週当たりの時数を変えていこうと考えております。</p>
小野田教育長	<p>これを載せた理由は、令和 3 年度から令和 4 年度にかけて、急に増えたことから、きちんと現状を理解してもらったほうがいいということで資料を作りました。</p> <p>今までの多くの外国籍の子は、両親が先に来て、生活基盤を確立してから子どもを呼び寄せていたのですが、特に工業団地に近い加須小や花崎北小に来た子どもたちは、世界情勢との関係で、職を求めて突然やってきた親の子どもたちで、</p>

全く日本語がわからない状態です。

昨年から加須市は、県に要請して、日本語指導の教員の配置をしてもらっています。現状から考えると、この1人ではちょっと難しい部分もあり、また、今後需要が高まってくるので、県にも要請しながら、さらなる加配教員を配置していかないと間に合わなくなるため、資料として提供いたしました。

小野田教育長

他にございますか。

引き続き、委員さんにおかれましては、幼稚園の適正規模及び部活動の地域移行について、ご意見等を頂き、事前に必要な資料があれば、ご用命していただきたいと思えます。

幼稚園の議題が第1となりますので、よろしく申し上げます。

小野田教育長

以上で、令和4年第8回定例会の議事日程は、終了といたします。

なお、次回、令和4年第9回定例会は9月26日(月)午後1時30分に開会します。

これをもちまして、令和4年第8回加須市教育委員会定例会を閉会といたします。

上記、会議の顛末を記載し相違ないことを証明するため、ここに署名する。

令和4年9月26日

教育長 小野田 誠

委員 山本 俊一

書記 岡田 正道